

平成30年度 第1回 館山市総合計画審議会 会議記録

1 日 時 平成30年7月27日(金) 14:30~17:10

2 場 所 菜の花ホール 2階 第3・第4集会室

3 出席者

| 委員構成 | 氏 名 | 役 職 |
|-------|--------|----------------------|
| 市議会議員 | 石井 敏宏 | 市議会議員 |
| | 森 正一 | 市議会議員 |
| | 望月 昇 | 市議会議員 |
| | 龍崎 滋 | 市議会議員 |
| 産業関係者 | 石渡 和男 | 館山商工会議所 推薦 |
| | 高橋 實 | 安房農業協同組合 推薦 |
| | 館石 正文 | 一般社団法人 館山市観光協会 推薦 |
| | 竹内 信一 | 公益社団法人 安房医師会 推薦 |
| | 平野 直 | 館山市地域公共交通会議 推薦 |
| | 吉田 南子 | 館山市地域包括支援センターなのはな 推薦 |
| | 鈴木 照久 | 一般社団法人 館山青年会議所 推薦 |
| 行政関係者 | 池田 一浩 | 千葉県安房地域振興事務所 推薦 |
| 教育関係者 | 守安 委久予 | 館山市教育委員会 推薦 |
| | 黒島 義春 | 国立館山海上技術学校 推薦 |
| 金融関係者 | 景山 富代 | 館山市金融団(二十日会) 推薦 |
| 労働関係者 | 羽山 敏雄 | 千葉県社会保険労務士会木更津支部 推薦 |
| 報道関係者 | 鈴木 勉 | 館山記者クラブ 推薦 |
| 知識経験者 | 石井 久治 | 館山市町内会連合協議会 推薦 |
| | 鈴木 正弘 | 社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦 |
| | 廣中 元衛 | 館山市体育協会 推薦 |
| | 石渡 秀嗣 | 館山市子ども・子育て会議 推薦 |
| | 田中 真由 | 公募委員 |
| | 溝口 かおり | 公募委員 |

(欠席者) 鈴木久雄委員、大谷部博明委員

4 議題

- (1) 会長・副会長の選任について
- (2) 地方創生推進交付金事業について
 - ①H29 推進交付金（効果検証）
 - ②H30 推進交付金（取組概要）
- (3) 『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について
 - ①進捗状況報告（数値目標・KPI）
- (4) 第4次館山市総合計画『前期基本計画』について
 - ①進捗状況報告（成果指標）
- (5) その他

5 会議の経過

1. 開会
2. 市長挨拶

金丸市長：ご多用の中、本審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、本審議会の委員就任について、ご快諾いただきまして、誠にありがとうございます。

加えて、日頃から市政発展のためのご尽力を賜っていることに対しましても、厚くお礼を申し上げます。

平成27年秋に策定した『館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略』は、すでに計画期間の3年が経過し、また、平成17年度末に策定した「第4次館山市総合計画」の『前期基本計画』は、計画期間の2年が経過し、間もなく折り返しを迎えようとしています。

現在、「地方創生」の名のもとに、全国の各自治体が生き残りをかけ、激しい地域間競争を繰り広げており、産官学金労言の各分野の参画・連携など、様々な動きが出てきているところです。

館山市では、『総合戦略』及び『前期基本計画』に位置付けた各種施策について、「PDCAサイクル」による取組の改善や効果的な実施に努めるとともに、引き続き、国の『地方創生交付金』を基に、地域の特性を活かした各種事業を展開し、「交流人口の増加」や「まちの賑わい創出」、「しごとの創出」等、地域課題の克服と地域の活性化を目指してまいりますので、ご協力くださるよう、お願いいたします。

本日の議題は主に

- ・平成29年度に実施した『地方創生交付金事業』の効果検証
- ・『館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略』の進捗確認
- ・『前期基本計画』の進捗確認

となっています。

本日、委員の皆様方をお願いしたいこととして、昨年度の『交付金事業』の効果

検証にあたり、事務局案でお示した「分析結果」・「今後の取組方針」の内容に関するご協議や、『総合戦略』及び『前期基本計画』で設定した「成果指標」の進捗状況のご確認、そして、『前期基本計画』に位置付けた各事業の実施状況、効果、課題、改善策の内容に関するご意見等を頂戴したいと考えています。

本審議会の開催に際し、多くの資料やデータをお読みいただくなど、ご負担をおかけしますが、日頃から様々な分野で活躍されている皆様の豊富なご経験とご見識に基づき、どうぞ活発なご審議をいただきますよう、お願いいたします。

結びに、各界各層の代表であります委員の皆様方には、市政へのより一層のご協力をお願い申し上げまして、挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

3. 委嘱状の交付

4. 委員の紹介

5. 議事

(1) 会長・副会長の選任について

会 長：石渡和男委員

副会長：景山富代委員

(会長挨拶)

石渡会長：石渡でございます。只今、会長の推薦をいただいたところですが、皆様のご協力を得まして、会議をスムーズに進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(副会長挨拶)

景山副会長：只今、副会長の推薦をいただきました、館山市金融団の景山と申します。

石渡会長を補佐いたしまして、本審議会が有意義なものとなりますよう、努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事前説明)

石渡会長：本審議会の委員名簿をみますと、9名の方が新規委員ということですので、本審議会が館山市の中でどのような位置付けの会議なのか、具体的にどのようなことをする会議なのかを確認したいと思います。

本審議会の概要について、事務局から説明をお願いします。

事務局：本審議会でご審議いただく内容は、主に『第4次館山市総合計画』、『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』になります。

この『総合計画』は、市の中でも最上位の計画になります。市には、他に様々な計画がございますが、すべてこの『総合計画』が基本となります。

本審議会では、館山市の『総合計画』及び『総合戦略』の策定作業を平成26年度と平成27年度にさせていただきましたが、策定後は、計画や戦略に位置付けた各事業が、数値目標もございますが、適切に進められているのか、目標に対してどういった状況なのか、進捗状況の報告をさせていただき、その中で必要な見直し、改善についてご意見・ご提案をいただき、各分野の取組を着実に進められるようにしていくことが目的となります。

石渡会長：本審議会と並行し、つい最近開催されました行財政改革委員会の概要について、私から説明をさせていただきたいと思います。

こちらは、『館山市行財政改革方針』や『館山市公共施設等総合管理計画』の進捗状況の検証や、市が実施している事務事業の見直し等について審議し、中・長期的な財政予測と将来の人口規模を見据えた行財政改革に取り組み、健全な行財政運営を目指していくことが目的となります。

金丸市長：石渡会長、よろしいでしょうか。

簡単に申し上げますと、本審議会が、市の方針を決める最高、最重要の会議となります。その方針が決まった中で、どういう風に進捗しているかを報告し、またその進捗状況が芳しくないときは改善していくためのご意見をいただく会議となります。

計画の上下については申し上げづらいですが、本審議会が行財政改革委員会を含むものであるとお考えいただければと思います。

石渡会長：ありがとうございます。

本審議会では、皆様から多くのご意見をいただき、市の財政は厳しい状況にありますが、各事業が目標達成に向けてしっかりと進められるよう、また、人口減少問題の克服や地方創生に繋がられるようにしていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

(2) 地方創生推進交付金事業について

①H29 推進交付金（効果検証）

※事務局より、地方創生関連交付金の概要、効果検証の方法、事務局案（分析結果、今後の取組方針、KPIの実績値・達成率に基づく各事業の評価）について説明

石渡会長：各事業へのご意見・ご提案については、事前にお聞きしていますが、事務局案の分析結果、取組方針に対して、追加のご意見・ご提案がありましたら、ご発言いただきまして、その後に「事務局案のとおりでよいかどうか」、審議会としての結論を決めていきたいと思っています。

そして、全11事業それぞれについての審議が終わりましたら、あらかじめ設定した、3つのKPIの結果をもとに、「取組が有効であったかどうか」、事業全体に対する評価について審議をしたいと思っています。

竹内委員：私は今、公益社団法人安房医師会の副会長をしており、職は館山病院の院長職をしております。

館山市には単身赴任して13年ぐらいになります。最初のうちは、館山に来て、駅を降りて、北条海岸を見て、子どもたちも連れてきたりして良かったなと思ったのですが、その後、13年、日々見ていて、全然、何の変哲も無いのですね。変化が無いという印象を持っています。

いろいろ事業をやられているのは良いのですが、人に「あっ」と言わせるような印象が無いように思われます。

ですから、お金をかけた割には、費用対効果があまり見えてこないという感じが

いつもしていました。

次に、11番目の移住のほうの取組についてですが、館山病院でもこの施策に則って、都内から当院に来て、病院職員として採用されている人がいます。

私は医療職ですが、医療とか介護とか、そういった分野を考えても良いのではないかと個人的には思っています。

最初の話に戻りますが、観光地でもどこでもそうですが、リピーターが来ないことには全然ダメなわけですので、今後は、一元では終わらないような施策をお願いしたいと考えています。

石渡会長：今頂戴した意見につきましては、今後の取組の改善に繋げていけるようにしていただきたいと思えます。

溝口委員：今、景観計画策定委員会を開催しているとのことですが、方向性として、委員の皆さんからどのような意見が出ているのでしょうか。

山口部長：景観計画策定委員会については、昨年から開催しております、非常に活発な議論が行われているところです。その中で、これまでの“南欧風”のまちづくりも含め、委員の方々から様々な意見を頂戴しています。

建築物や看板等の設置に関する方針を決めて、施工者に誘導をしていきながら、ゆるやかな規制を図っていく内容になろうかというところではありますが、今年は、中学校単位で市民ワークショップを開催しまして、そこには、高校生も参加していただきました。

若い人の声というのは非常に重要でありますので、そういった声を吸い上げ、景観に関する計画を策定していき、ある程度の叩き台ができましたら、パブリックコメントの実施を予定しています。

また、今回、委員の皆様からいただいたご意見も非常に参考になっております。今後のご意見を頂戴すると有り難いと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

田中委員：つくづく以前から疑問に思っていたのですが、“南欧風”というのは、何を根拠に“南欧風”としているのかを教えてください。

というのも、ここ2年ほど、いろいろな方と館山の今後のあり方とか、「こういう風になると良いよね」みたいな話をする機会が多かったのですが、みんなが想像しているものが割と“西海岸”なのですね。

もし“南欧風”なら、“南欧風”と言い切るのも良いのですが、それを、どこができちんとうたっているのかどうか。言い切るのであれば、パンフレット等で、「館山市はこういう方向性で“南欧風”にしている」ということをきちんと示すべきだと思っています。

皆さんとの乖離がすごく生まれているような気がしていますので、“南欧風”を目指すことになったきっかけとか、コンセプトの発想とかを教えてください。

山口部長：館山市では、リゾート法が賑わせた20年程前に、館山市の街並みというか、景色が“南欧風”に似ているというご意見を頂戴しながら、平成元年に「館山市街並み景観形成指導要綱」を策定しましたが、当時の館山市の『総合計画』に“海

洋性リゾートタウンのまちづくりを進める”というコンセプトがあり、その中で“南欧風”という位置づけがありました。

現在も続けられているフラメンコは、市のイメージをそのようなものに持っていく、リゾートに対応するという事で、学生の聖地のような形で残っているところではありますが、やはり、10年、20年経ちますと、いろいろな課題とか状況が変わっていきます。

策定委員会の中でも、“南欧風”、“南欧”のまちづくりについてのご意見も頂戴しています。現要綱をどのように修正するのこともありますし、現在の『総合計画』では、はっきりそういったことをうたっていない状況にありますので、時代とともに変わっていくものではないのかなと考えています。

個人的には“西海岸”というイメージ、コンセプトも非常に合っているのかなと思いますので、これに関しても、いろいろな意見を頂戴できればと思います。

石渡会長：それでは、1番目の「景観計画策定事業」について審議をいたします。

事務局案の分析結果、取組方針に対して、追加のご意見がありました。審議会としての結論は、事務局案に賛成ということによろしいでしょうか。

各委員：異議なし

石渡会長：2番目の「景観形成事業」について審議をいたします。

事務局案の分析結果、取組方針に対して、追加のご意見・ご質問等、いかがでしょうか。

各委員：特になし

石渡会長：追加のご意見等は無いようですので、審議会としての結論は、事務局案に賛成とし、委員からいただいた意見を踏まえて、実施してもらうということによろしいでしょうか。

各委員：異議なし

館石委員：資料2-3のデータシートでは、総合計画審議会委員による意見の欄に、○と●があります。事務局案に対し、「○は賛成、●は受け付けられませんよ」という意味でしょうか。

事務局：そのことについてご説明しますと、事務局案に賛成というご意見がかなりございました。それ以外として、○は事務局案に肯定的な意見、●はダメだというよりは、今後の改善に対するご意見とかご提案の内容になります。○と●の書きぶりは難しいところですが、○が多いとか、●が多いということよりも、全体的には賛成のご意見が多かったということになります。

館石委員：賛成、反対を問うているのはですね、「○は賛成しますよ、●は無視しますよ」ということなのかを確認させてください。「●の意見もありますけど、それはすぐにとはいかないので、○の意見について賛成」ということで理解すれば良いのでしょうか。

事務局：●については、当然、こういったご意見を踏まえて、今後、事業に取り組んでいく必要があるものと考えています。

事務局：ここで、事務局から提案させていただきたいのですが、11の事業について、1つ

ずつご審議いただいているところですが、時間の制約がありますので、もしよろしければ、K P I の指標ごと、例えば、1～9までの事業が1つの指標としてまとまっていますので、K P I の指標ごと、3つに分けてご審議をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

石渡会長：事務局からの提案のとおり、1～9の事業を総括して評価したいと思うのですが、いかがでしょうか。

各委員：異議なし

石渡会長：1番目と2番目の事業については審議が終わっていますが、改めて、1～9の事業について、ご意見・ご質問等、いかがでしょうか。

事務局：補足をさせていただきますと、委員の皆様から反対のご意見はいただいておりません。ご提案、ご要望、ご質問についてはいただいておりますが、概ね賛成のご意見が多数、賛成の意見のみということでご理解いただければと思います。

竹内委員：それだとおかしくないですか。賛成の意見だけだということなら、審議する意味が無いではないですか。やはり、ある程度審議するからには、反対とは言いませんが、新しい提案とか、そういったものをここで審議するという事ではないでしょうか。賛成だけなら会議を開く意味が無いと思います。事務局の言っていることはおかしいですよ。

事務局：失礼いたしました。各事業の見直しについて、事前にいただいている、ご意見やご要望、ご提案等がございましたら、頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

竹内委員：よろしいですか。反対というからおかしいのであって、反対ではなく、この会議では、前向きな意見というか、「こういう風に改善したほうが良いですよ」とか、そういったことを拾い上げるのが本来の趣旨ではないでしょうか。そうではないと、より良い形にはならないと思います。

事務局：おっしゃられたとおり、今後に繋がる前向きなご意見、ご要望をいろいろと頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

石井(敏)委員：私も意見は述べておまして、「オレンジ色はおかしいのではないか」とか、「沖ノ島に常設トイレがあったほうが良いのではないか」とか、事前に書かせていただいたのですが、ただ、これらはすでにやることは決まっています、それに対しての評価が妥当であるとか、実際にやってみて、このやり方では足りないのではないとか、これはやっていないのではないとか、そういう観点で評価すべきものだと思っています。

私もいろいろ意見を出しましたが、事務局案に対して反対とはつけなかった、つまり、賛成だということを出しております。

また、1～9の事業に関しては、評価のとおりだと思っています。

ただ、1つ聞きたいのが、K P I が観光入込客数となっており、これが、宿泊客数だとしたら、今いちなのではないかと思っています。

K P I は、もともと観光入込客数ということで決めていたのでしょうか。

事務局：これらはすべて、国の交付金を活用した事業として、内閣府に交付金の実施計画を

出しております。その中で、K P Iとして予め設定しているのが、観光入込客数、企業誘致件数、移住者数でして、宿泊客数についてはこれには含まれていないという状況になります。

いろいろな取組をした中で、観光入込客数の増加や企業誘致の実現、移住者数の増加を目指していくというような計画となっております。

石井（敏）委員：K P Iについてはわかりました。この評価とは少し違うと思いますが、宿泊も伸びるように取り組んでいただけたらと思います。

石渡会長：貴重なご意見ありがとうございました。

1つ1つ審議していくほうが良いのですが、時間の都合もありますので、事務局からの提案のとおり、1～9までの事業を一括して審議したいと思いますが、よろしいでしょうか。

望月委員：よろしいですか。1～9までの事業を一括審議ということですが、その中で、観光入込客数が主題となっていると思うのですね。

これは、個人的な考えで申し訳ないのですが、館山市は観光立市を標榜しておりますし、それについての施策もたくさん行っており、予算もついていて、市の職員の担当も結構充てていることと思います。

その中で、資料に平成29年度の担当課という欄がありますが、観光入込客数という観点でとらえた場合に、館山市には観光に特化した部や課が必要ではないかと、何回もお話をさせていただきました。

そうすれば、無駄なダブった施策はいらなくなるし、有効なお金の使い方もできるし、有効な人員配置もできると思いますので、観光入込客数に特化した施策を踏まえたうえでの担当課も必要ではないかと考えています。その辺についてお答えいただけるとありがたいです。

川上部長：「観光入込客数、観光に特化した組織立てを」ということでございますが、これについては、すでに議会においてもご意見を頂戴しているところでございます。そのようにくくる組織立てもありではございますが、観光については、これまでのいろいろな背景であるとか、事業内容などとかにより組織立てをしております。

ご意見として頂戴いたしますが、現時点では、組織ごとの横の連携を強くして、観光に対する連携を取っていきたいと思っています。

望月委員：すぐにはできないと思いますので、そういう考えの中で動いていただければ幸いです。と思っていますので、よろしく願いいたします。

石渡会長：それでは、1～9までの事業について、審議会としての結論は、事務局案に賛成とし、委員からいただいた意見を踏まえて、実施してもらおうということでのよろしいでしょうか。

各委員：異議なし

石渡会長：10番目の「海を活かした雇用創出事業」、11番目の「海の魅力による移住定住施策」については、1つずつ審議することとします。

まず、10番目の「海を活かした雇用創出事業」について、事務局案の分析結果、

取組方針に対して、追加のご意見・ご質問等、いかがでしょうか。

石井（敏）委員：K P I の評価は「ある程度有効であった」とありまして、実績がゼロ件、3段階評価の一番下の評価が「ある程度有効であった」ということなので、これはこのとおりにしかならないのですが、ただ、企業誘致は、政策としては最難関の分野だと思うのです。だから、頑張ってもなかなか結果が出ないということも理解するところですが、目標を2件とした以上は、1件でも2件でもちゃんと達成するように、今後も引き続き、頑張っていたきたいと思います。

石井部長：今のご意見に対して、お答えさせていただきます。

石井（敏）委員のおっしゃるとおり、企業誘致までもっていくのはかなり難儀であるのは事実ですが、我々も手をこまねいているわけではなく、これまでも担当のほうで70件近くの企業を訪問しています。

I T企業やベンチャー企業、とくにI T企業はこちらに進出しやすいのかなということで会社訪問しています。そうした中で、実績には結びついていないのですが、都内にあるI T企業のグループにプロモーションをかけた結果、昨年度と今年度、そのグループの方々がこちらに来て「ロボラボ教室」という、子ども向けのプログラミング教室を開いてくださいました。

依頼が多く、2年連続は無いということでしたが、館山市には2年連続で来ていただきました。その方々と、「なかなか館山まで来るのは難しいですが、これからもよろしく願います」といった話をした際に、“関係人口”という言葉が出てきました。ある経営者の方からは、「わかった。館山市にふるさと納税をしよう」というお話もいただきまして、“関係人口”を増やしていくことで、企業誘致に結びついていければと考えています。

企業誘致が難しいのは承知していますが、そういった形で一つ一つ取り組んでいます。また、結果までは至っていませんが、今年度に入って、幾つかの企業から「館山に進出してみたい」といった打診もいただいております、引き続き、担当も頑張っており取り組んでいますので、よろしく願いいたします。

石渡会長：この事業は、行政が予算を投入して一方的にやれるものではなく、相手があることですから、なかなか難しいということは重々承知しています。

今年度もまだ期間がありますので、引き続き頑張っていたきたいと思います。

それでは、10番目の「海を活かした雇用創出事業」については、事務局案に賛成としたいと思います。よろしいでしょうか。

各委員：異議なし

石渡会長：11番目の「海の魅力による移住定住施策」について、事務局案の分析結果、取組方針に対して、追加のご意見・ご質問等、いかがでしょうか。

龍崎委員：まず、館山市の『総合計画』につきまして、実務的な戦略として、『まち・ひと・しごと創生総合戦略』が示されているわけです。

今回、海辺エリアという切り口で入っていますので、そういう部分から、「海の魅力による移住定住施策」という風に示されております。

実際に、K P I の中では、移住者数について基準値、目標値、実績値、達成率が

示されているのですが、この部分の達成率、成果は、海の魅力だけではなく、『総合戦略』で様々なものが絡み合い、相乗的な中で発生していると思われます。そして、また、移住定住施策も様々な分野でもって、館山に、交流人口、関係人口、あるいはリピーターとして定住に繋がったという、様々な評価があると思いますので、このKPIについて広く判断するのであれば、成果があったのだと思います。

資料3-3には、各基本目標における重要業績評価指標、KPIが示されておりますので、この辺をみますと、広範な分野について分析をしたいところですが、時間等の関係もあり、それは難しいと思っています。

ただ、海の魅力だけで移住定住施策を進めているとは思っていません。

館山の特色として考えるならば、海というものがコンセプトとして取り上げられることは重要でありますし、今日の1～11番までの事業も、それに関してということで、そのこと自体は認めたいと思います。

景観形成については、すでに話が終わりましたが、そこにいかに予算を確保して継続していくかということで、一時的に脚光を浴びて力を込めても、それが尻すぼみになってしまうということがあってはならないと考えております。

そして、移住定住施策、海の魅力ということで、繰り返しますが、この部分につきましても、海の魅力とさらに他の要素を組み合わせませんと、なかなか成果が現れにくいと思っています。『総合戦略』全体で、海の切り口から入ってくる波及効果を望みたいということで、意見を申し上げます。

石渡会長：ご意見ありがとうございました。

それでは、審議会としての結論をまとめたいと思います。

事務局案に賛成とし、委員からいただいた意見を踏まえて、実施してもらうということでよろしいでしょうか。

各委員：異議なし

石渡会長：各事業についてのご審議ありがとうございました。

続いて、設定した3つのKPIの結果をもとに、「取組が有効であったかどうか」、事業全体に対する評価について、一括して審議をしたいと思います。

事務局の説明では、1つ目のKPIである『観光入込客数』は達成率が110%で、取組は「非常に有効」、2つ目のKPIである『企業誘致件数』は0件であったため、達成率も0%ですが、数字以外の部分についての評価を加味して、取組は「ある程度有効」、3つ目のKPIである『移住者数』は達成率が115%で、取組は「非常に有効」との評価でした。

これら3つとも、事務局の評価のとおりとしてよろしいでしょうか。

各委員：異議なし

②H30推進交付金（取組概要）

※事務局より、概要について説明

石渡会長：事務局の説明について、ご意見・ご質問等がありますでしょうか。

各委員：とくにありません。

(3) 『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について

①進捗状況報告（数値目標・KPI）

※事務局より、進捗状況について説明

石井（敏）委員：赤ちゃんの駅整備数について、目標値が40カ所になっているのですが、これが35カ所で止まった状態になっていますので、もしわかればその理由を教えてくださいたいと思います。

もう1点、介護職員初任者研修受講者数については、6人ということで、かなり低迷しているのですが、介護人材を増やしていかないといけないと思いますので、目標に届いていないことについてご見解を伺います。

四ノ宮部長：赤ちゃんの駅整備数が伸び悩んでいるということはおっしゃるとおりです。

赤ちゃんの駅というのは、赤ちゃんのおむつを交換する台やスペースのことを言いますが、公共性のあるような場所に加え、施設をお持ちの所有者のご理解が必要というところもありまして、伸び悩んでいる状況にあります。

熊井部長：6名で低迷しているとのことご指摘ですが、部としても「低迷している」、「6人では足りない」と認識しています。

ただし、どうしても国の制度に縛られて介護の報酬が決まってくるということもありまして、報酬の問題が一番大きいかと思いますが、その中でどうやって介護に携わる人を増やすかというのは日々試行錯誤しているというか、常に考えているところです。

6名ですので、この結果を良しとはしないということで、引き続き、何とか、介護の人材をどのように増やしたら良いのか、部を挙げて考えていくべきことだと思っています。今の段階で、具体的にこれをどう増やすかというのは、まだ明確にお答えできるような状況にありませんので、もう少しお時間をいただきたいと思っています。

石井（敏）委員：介護人材については、2025年問題と言われるように、ここ何年か、どんどん大変になっていくと思いますので、介護人材の確保に努めていただきたいと思っています。

竹内委員：介護人材については、私も現場で携わっているものですから、行政に他力本願でやっても絶対に無理なのですね。

ですから、例えば、医療とか介護の現場の者が一緒にならないといけない。1つの案として、どこかの市がやっているのですが、ご両親か誰かが施設に入所した場合に、その施設がお子さんを雇って、自分の親を面倒見ながら、職員として働く。そういうやり方もありかなと思っています。

ですから、考える案は結構あると思います。ただやみくもに、行政に何かしろと言ってもそれは無理です。実際に、給与面から言っても3Kですから、住民を巻き込んだ形で、館山市全体、最終的には日本全体で考えていかなければいけないものだと思います。

2025年問題について申し上げますと、私自身が、2025年問題の対象ですが、これは別に悲しいことではありません。

私自身は、高齢者が増えるということは悲しいこととは思っていません。要するに、健康寿命であれば良いわけですし、お年寄りが増えるということは、それだけ経験者が増えるわけですから、それは悲しいことではないですし、もっと前向きに考えたほうがよろしいかと思っています。

熊井部長：一緒に考えるというのは、本当に必要だと思います。

今までは、どちらかというと、行政が考えたことに対し、住民の皆さんに協力してくださいというパターンと、いわゆる官民協働とか住民参加みたいに言われますが、住民の皆さんが考えたことに対し、行政に協力してくださいというパターンがあります。これからは絶対に、一緒に考えて、一緒に方針を決めて、一緒に行動するということが本当に必要だと思いますので、今のご意見に対し、ぜひ具体的にそういう場を設定するよう努力していきたいと思っています。

森委員：まず、数字の確認ですが、資料3-4の数値目標で、宿泊客数は399,000人から411,000人になったので、22,000人の増加とありますが、正しくは12,000人の増加になりますよね。

事務局：記載誤りのため、訂正させていただきます。

森委員：宿泊客数の約40万人は、観光で来られた方、ビジネスで来られた方など、宿泊された全員の数になりますでしょうか。

石井部長：宿泊客数は、観光もビジネスも含めて、宿泊された全員の数になります。

森委員：恐らく詳細まではわかりませんが、1年間で12,000人増加しているということで、仕事での宿泊客数はそれほど多く増えているような気はしないのですが、観光目的の内訳、海に来たとか、釣りをしに来たとか、スポーツをしに来たとか、あるいは花を観に来たとか、そういった分析は可能なのでしょうか。

石井部長：手もとに細かい資料が無いのですが、施設別にとっているものがあると思いますので、持ち帰って分析してみたいと思います。

全部の施設にアンケート調査をしているわけではありませんが、主要なところからデータをもらっていますので、持ち帰らせていただきたいと思います。

森委員：日帰りですら帰られる方と宿泊される方を考えれば、地元で落とす金額は全然違うと思いますので、宿泊が増えることは非常に良いことだと思います。

現在、ピーク時になると、宿泊施設の部屋の数が足りなくなり、私も頼まれて探したりするのですが、ピークでない時期の宿泊客数を増やして、部屋の利用率を上げることが大事であると思っています。

そのためにも、どういった目的で来られているかという分析も大事であると思いますので、しっかりと分析をして、市内のいろいろな施設の充実、整備に繋がっていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

景山委員：資料3-3のKPIの指標のうち、外国人宿泊客数については、先ほどご説明いただきましたが、平成28年度は1,900人、平成29年度は997人ということで、全体をみますと、誰も来ていないという数字の範囲ではないと思います

が、それにしても、平成28年度は前年度に比べて1,500人も多く来ているということで、「バラつきはあるようです」との説明がありましたが、どういうことがあったのか、ある程度の分析をしておく必要があるのかなと思います。

それから、外国人観光客の誘致というのは、日本中で今、どこでも躍起になってやっていることだと思うのですが、館山市も観光でやっという計画になっていることに対しまして、その辺をどのようにお考えになっているかをお尋ねしたいと思います。

石井部長：まず、1,900人から997人に減ったということですが、説明しましたとおり、かなりバラつきがありまして、平成27年度をみますと、445人となっています。

平成28年度から増えているのは、平砂浦にあるホテルで、3月から4月に東京で宿泊できなかった団体のツアーが大挙して入ったといったような、一時的、一過性の増加がありました。

また、駅前のビジネスホテルでも、1月に北米系の10数人のグループが1週間ほど連泊したといったことがありました。今、これだけ外国人観光客が日本に来ている中で、「この数字ではお寒いな」という感じでいらっしゃるかと思うのですが、確かにそのとおりです。

市では、今、台湾にターゲットを絞ったプロモーションをしております。

とくに今年の1月の終わりから2月の初めにかけて、市長と観光協会長と館山インバウンド協議会の会長が、台湾の高雄市へトップセールスに行っております。その成果といいますか、年度が明けてから、立て続けに台湾からお客様が来ています。5月には向こうのアマチュアゴルフ協会の方、6月と7月は、中学校や小学校の修学旅行が大挙してこちらに来ております。その後も、台湾からの視察が予定されていたり、10月には台湾商工会の青年部の方がこちらにいらっしゃる予定となっています。その先には、台湾の旅行会社の方を招いてのファミトリップも予定されていることから、今後、台湾を中心に、いずれ増えてくるかと思っています。

とくに、台湾については、新聞にも載っていましたが、中国、韓国に次いで、3番目に訪日客が多いところでございますので、しっかりターゲットを絞ってやっていきたいと思っています。

金丸市長：今、説明がありましたが、今年度はかなり増えるものと考えられます。

パンパシフィックのオープンウォータースイミング競技の国際大会も開かれますし、スポーツイベントの関係もだいぶ増えています。それから、オランダのホストタウンになっていますので、この秋、10月頃からもその動きが出てきます。そういう観点からいっても、インバウンドに力を入れていきますし、今年度からかなり増えてくるものと考えています。

溝口委員：今のインバウンド観光に関連することかと思うのですが、市のホームページの閲覧数が減っているということで、若干説明はあったのですが、ずっと同じホームページですよ。今後、ホームページが新しく、きれいになるような予定はある

のでしょうか。

鈴木部長：ホームページの閲覧数が減っているのは確かですが、先ほど説明がありましたとおり、SNSやQRコードから入っていけるということで、また、鮮度やその維持については、各課、全庁的に声をかけているところです。

ホームページの全体的な改修につきましては、費用対効果を踏まえつつ、検討していければと思っています。

溝口委員：期待しています。

石渡会長：その他、ご意見はございませんか。

無いようですので、以上で質疑を終了したいと思います。

(4) 第4次館山市総合計画『前期基本計画』について

①進捗状況報告（成果指標）

※事務局より、進捗状況について説明

石渡会長：館山青年会議所の鈴木（照）委員、何かご意見等ありますでしょうか。

鈴木（照）委員：青年会議所では、まちづくりと青少年育成事業等を実施している団体でありまして、20歳から40歳までのメンバーで活動しています。

景観計画の策定等、先ほどいろいろな事業について確認させていただきましたが、青年会議所としては、8月12日に海に関連するイベントを実施いたします。館山の重要な魅力の一つである海の環境改善に少しでもお役に立てればということで、そういったものも実施しつつ、まちづくり事業を展開していきたいと考えていますので、皆様とタッグを組んで、一翼を担えればと思っています。

仕事の面では、先ほど2025年問題ということで話がございましたが、私は、特別養護老人ホームを館山市と南房総市とで運営しておりまして、人材というものが一丁目一番地で困っておりますので、行政の皆様と一緒に取り組んでいければと思っています。よろしく願いいたします。

石渡会長：ぜひ、若い力で前に進めていただければと思います。

龍崎委員：資料の4-1、4-3に絡めてですが、私がずっと関わっている分野について質問させていただきたいと思います。

農水産業の振興というところで、食も範疇に入っております。この中にある、地産地消推進店の目標値が、平成32年度末までに170店、現状では138店となっていますので、これを増やして行ってほしいと思います。

地元の産品を地元の消費者にという方向性で、これは議会としても「地産地消条例」を制定して、行政とともに地産地消を進めていこうということで打ち出されています。

資料4-3の24ページには、「地産地消推進店など各種制度の登録数が伸び悩んでいる」との状況があります。また、課題として「登録者へのメリットが明確でない。地産地消レシピを提供する店がない」とあり、この辺がなかなか伸びていない要因だと思いますが、地産地消推進店の登録を推進していくことが、実は、

商業関係、農水産業の現場に対する大きな刺激材になって成果が出ていくのではないかと考えています。

この地産地消推進店の進め方について、どのように考えていますでしょうか。

石井部長：ご指摘のとおり、地産地消推進店の登録は伸び悩んでいるのが現状です。

これについては、今年度、食のまちづくり協議会等の取組の中で、もう一度、地産地消推進店として登録していただいたお店の情報を洗い直して、リニューアルをしていきたいと考えています。

そのために、10月から地域おこし協力隊を1名委嘱する予定ですので、その方にも情報収集等も含めてやっていただきながら、さらに情報をブラッシュアップしたうえで発信していく。そこで、先ほど龍崎委員からお話のあった、メリットがある地産地消推進店にしていきたいと考えています。

石渡会長：黒島委員、何かご意見等ありますでしょうか。

黒島委員：私は、転勤族でして、最初に館山市に転入したときは、人口55,000人だったのですが、今見たら45,000人ということで、ちょっと寂しいなど。

この間、3回出たり入ったりしておりますので、他の市町村も見て来ていますけど、人口が増えてきているところもあるのですよね。

それと、子どもは間違いなく少なくなってきましたので、学校がどんどん統合されているのも肌で感じておりますし、中学校にも学校のPRで廻るのですが、行ったところにもう中学校が無いという状況も見ています。

時代の流れかなと感じていますが、何とか、活気ある館山市になるように、外部から100万人近く、人も入っておりますので、その方たちに、館山市のためにお金を落としてもらえる方法を考えられればと思います。

竹内委員：最後に一言だけよろしいですか。

私は、先ほども言ったように単身赴任で、家は東京に近いほうなのですが、だいたいテレビを観ますと、何かあると必ず館山市が出てきますが、実際は、南房総市とか鴨川市とかなのですよね。

ですから、市長、その差別化をどうするかという視点はどうなのでしょう。

金丸市長：“南房総”というキャッチフレーズで出ているということですね。“南房総”というのが、温暖であるとか、南国のようであるとか、そういうイメージで使われていることが多いと思いますが、内容は、館山市についての放映がすごく多くなっています。

天気予報は別として、1週間のうち、5日はどこかで出ていますし、マスコミ等で発信していますので、館山市の認知度は高くなっていると思いますが、それ以上に“南房総”というキャッチフレーズが浸透しているのかなと感じています。

竹内委員：逆に言うと、そうであるからこそ、ホームページとかは今の若い人たちが見るわけですから、費用対効果を考えながら、早く、ビジュアルに訴えるべきではないかと思っています。ホームページはかなり影響力がありますから、やはりビジュアルの部分を強化したらどうでしょうか。

館石委員：私のほうからフォローしたいと思います。

館山市観光協会が実施している「たてやまファンクラブ」は、お客様に館山市のファンになっていただき、リピーターになっていただくというのですが、会員になっていただいた方が希望すると、メルマガで定期的に、施設のオープンとか開花状況とか、海水浴場、イベント等の情報発信をしています。

会員は、今、5,000人～6,000人ぐらいなのですが、目標を1万人としていますので、館山のファンを増やしていけるよう、ぜひご協力いただければと思っています。

田中委員：毎年、KPIの状況報告をしていくということですが、今、すごく地方と都市の関係で大きな変革の時期を迎えていると思っていまして、すでにこれ自体が若干そぐわなくなってきた感じがしています。それぐらい、世相のスピードがものすごく速い時代になっていて、自分の言いたい意見がどれにも属さなかったりするのですね。

あくまでも、これは、決めたことに対する提案とか意見をやる形だと思のですが、参加するたびにその辺がモヤモヤしてしまったりしています。

時代の変遷とともに変わっていくものがあるのに、一方で、KPIは変わらずに追いかけていくような状況を、今後どう自分が受け止めたらよいのでしょうか。

事務局：『前期基本計画』は、まだ折り返しぐらいになりますが、『総合戦略』については、大よそ『前期基本計画』と整合をとって作っていますが、来年度が最終年度となります。

ですので、まだ正式に国から連絡等はありませんが、来年度は、恐らく第2期の『総合戦略』を策定することになるかと思っていますので、その中で、KPIの項目もそうですし、施策につきましても、皆様のご意見をいただきながら、作り直していければと思っています。

(5) その他

※特になし

以上